# 膨張する国保会計

## 事業開始当時の九倍に　税額昨年度より32％増

国民健康保険事業が昭和三十二年町全域に施行されてから満十年、その間給付内容は随分拡充強化されてきましたが、今年の一月からは全被保険者に七割給付を実施、四月からは別項記事の通り、助産費等の支給額を引上げるなど一段と被保険者に有利になりました。

その半面受診率の増高、医療費の改訂などによって、国保会計は膨張を重ね、事業開始当時の予算額（八百六十万円）と本年度の予算額とを比べると約九倍、保険税の額は約八倍になっています。

国保特別会計予算は概要別表のとおりで、才出総額の九〇・五％が保険給付費であり、これを国、県支出金と保険税でまかなうのですが、被保険者の負担を少しでも軽くするため、町の一般会計から百五十万円の繰入れを願っております。それでもなおかつ保険税は、昨年度より三二％の増となり、被保険者の皆さんから苦情を頂いているわけです。

国保事業はご承知のように住民相互扶助の大きな役目を持ち、健康な横芝町をつくる原動力となるものですから、健全に事業を運営して行けるように、皆さんの一層のご理解とご協力をお願いする訳であります。

43年度国保特別会計予算　＜単位千円＞

| 才入 | | 才出 | |
|---|---|---|---|
| 国保税 | 32,576 | 総務費 | 4,868 |
| 国県支出金 | 40,286 | 保険給付費 | 68,332 |
| 町繰入金 | 1,500 | 保険施設費 | 972 |
| その他 | 1,119 | その他 | 1,309 |
| 合計 | 75,481 | 合計 | 75,481 |

## 助産費・葬祭費など　国保支給額を引上げ

町の国民健康保険条例の改正があって、この四月から助産、葬祭、育児手当の支給額が次のように引上げられました。

助産費　三、〇〇〇円
葬祭費　三、〇〇〇円
育児手当　月額二五〇円

いづれも国保の被保険者である場合であって、助産費は妊娠四ケ月以上でお産したとき、葬祭費は葬祭を行なった者に、育児手当金は出産後六ケ月たってから、養育した月数分だけそれぞれ支給されることになっています。

## 西瓜苗育成に大成功　中台共同育苗センター

大総地区中台部落では昭和三十年頃から、四Hクラブが蔬菜類の共同出荷組合をつくり、東京市場へ出荷していましたが、最近、市場で中台西瓜の声価が高まり販路が開けて来ましたので、西瓜を主とした優良品種生産のための共同育苗センター建設にふみ切ったのです。

中台園芸組合の怒賀源也組合長や伊藤春治、石橋勇さん達の先導で、鈴木一郎さんの畑を借用、約九二五平方米（二八〇坪）工費一二〇万円のビニーハウスができ上り、先づ西瓜のツギ芽苗（旭都）五万四千本を仕立て見ごとに成功しました。

近頃西瓜苗は夕顔の台木に西瓜の芽をついで作る方法が考案され、連作できてしかも品質収量ともに非常に優れているところから、栽培農家の間で好評を拍していますが、この育苗には極めてむつかしい特殊技術を必要とする由であります。

共同育苗センターでは苗のできが予想を遥かに上回る好成績で殆んどロスが無く、組合員の需要を充たしてもなお、初めに見込んだ二割位の余裕分があまったので一般に頒布したところ、遠く銚子、成田方面からも買手が来る程の盛況であったということで、役員の方々は大層よろこんでいました。

＜スクスクと伸びた西瓜苗の世話に余念のない組合員＞

## 農村共同館の建設も

西瓜苗の育成に大成功を収めた中台部落では、更に区民一丸となって農村協同館建設の相談がまとまり、本年度中に実現の運びであるという朗かなニュース。

協同館建設委員長伊藤謙氏以下二十二名の委員が、それぞれ計画の立案と実施に奔走していますが、建設敷地としては中台十字路附近の土地約五六〇平方米（一七〇坪）の所有者鈴木一雄、五木田正雄両氏の承諾も得ており、県から百万円、町から三十万円の補助を受け、総工費二百九十二万円で平家建耐火造りの近代的建物を建設するとのことです。

西瓜で売出した中台部落が更にこの協同館を中心にして、飛躍的発展をする日の一日も早かれと、町当局では大きな期待をかけています。

## ふる里の話題

### 頭かくしの地蔵様（栗山）

お地蔵様最後に鎮座の場所と伝えられる庚申前　四辺のたたずまいは物語の筋を髣髴させる。

昔、まだ栗山には飛行場跡などと呼ばれる所は勿論、NHKの建物や工場等もなく、いま横芝町と光町の間にかかっている栗山橋のあたりから栗山川一帯は松と柴栗の林が長々と続き、その中にたった一本の細い路が草の間を見えかくれに続いて、その間には都城（つづき）の屋敷という、人の住んでいない屋敷があるほか、屋根屋さんとお百姓の家が一軒づつあるだけの本当に昼なお暗い淋しい所でした。里の人たちはこの栗山路を「九里山路」と呼んで恐ろしい場所と考えていました。もっとも追はぎや強盗のでることも度々だったといいますから当然のことでした。

その頃、都城屋敷のそばに二体のお地蔵様が建っていました。土地の人はこのお地蔵様を「汗かき地蔵」又は「頭かくしの地蔵」と呼んでいました。お地蔵様は本郷の平次郎さんという人の持ち山に建っていましたが、近くに山火事があるとキッと平次郎さんのお宅の人に予感があって、駈けつけて見るとどんな大きな山火事でも平次郎さんのその持山は焼けずに残っていました。そしてお地蔵様のからだはビッショリと汗でぬれているのでした。「これはキッとお地蔵様が一生懸命働いて火を防いで下さったのだ」と平次郎さんのお宅の人達は手を合せてお礼を申しあげました。

またこのお地蔵様の一体はいつも頭がありませんでした。いつもありませんでしたというのは、本当はあるのですが誰かが持って行ってかくしてしまっているのです。それは「私の願いがかないましたら頭を元どおりにお返しします」といってその頭を持ち帰り、念願がかなうと赤いのぼりをお礼として納め、頭は元のとおり返しておいたものでした。そのご利益がとてもあらたかなのでいつも頭がかくされていたのでしょう。恐ろしい追はぎもこの近くには現はれませんでした。

この有がたいお地蔵様のご利益は昭和の御代まで続き、赤いのぼりは列をつくりおさい銭も多く、昭和御大典の頃にはコンクリート造りのさい銭箱が奉納されたほど栄えていました。

そのうちに今度の戦争が起り栗山路の松と柴栗の林も飛行場になったので、お地蔵様を栗山集会所に移しました。ところがここに「上吹入のおきんさん」というおばあさんがいてとてもこのお地蔵様を信仰していました。或日のことこのお地蔵様がおばあさんの夢枕に立ち「いま建てられている所は誰も訪れる人がなくて淋しい、どこか人の来る所に移してほしい」と淋しそうに話しかけました。他にも「同じような夢を見た」という人がいましたので皆で相談しあって、その頃栗山では割合いに人の通る庚申前という、大社参りの石碑などの建っている三差路にお移ししたのです。

戦争も終った頃、庚申前附近で生れた人で東京で相当のお金持になっている人の夢枕に、お地蔵様が立たれて「私はお前の生れた家の近くに建っている地蔵だが、今は誰もふり返ってくれない。お前の力でどこかに移してもらいたい」とお頼みになりました。ハッと思って目をさましましたがお地蔵様の姿は、あの庚申前の地蔵様そっくりでしたので早速栗山に帰り、平次郎さんのお宅の方に話をして東京方面にお移しし、今でも大切にお祭りしているということです。きっとその人に有がたいご利益を与えていらっしゃることでしょう。

（この話は栗山本郷の斉藤源太郎さん、加瀬実さんの皆さんから資料をいただき、一部修飾を加えました。なお話中の氏名は都合で変名を使はせていただきました。）

## 無料でとどく「知事への手紙」

「県政ポスト」「知事への手紙」という制度をご存じですか。

「この手紙は、友納知事が、みなさんからご意見やご要望、苦情などをおよせいただいて、これをよく検討し、県の仕事にとり入れて、住みよい千葉県をつくりたいという願いから行なわれているものです」と説明し、昭和三十八年六月から実施され、既に五年になります。この間、年に千三百件から千四百件の要望や意見が出され、中でも道路関係のものが多く三五％を占めている由、届いた手紙は全部知事が目を通して処理の指示を与えているとのことです。

県政ポストは横芝町では、役場と農協の大総支所及び上堺支所に備えてあり、切手を貼らなくとも知事の手元へとどく無料のはがき、封筒、便せんが入っています。

できるだけ町民皆様に活用していただいて住みよい千葉県つくりに協力してもらいたいと県では望んでいます。

なお県では、県政掲示板「県民の窓」を本年一月から各市町村に設置して、「県政フォトニュース」やポスター等を貼りだし、県政の広報を行っています。町役場前と東町児童館前にありますからご用事のついでにご覧になって、県政に対する認識を深めていただくようお知らせします。

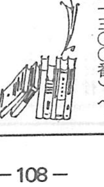
## 検察審査会からのお知らせ

皆さん！あなたやその周囲の人で、犯罪によって被害を受け、その犯人を処罰してほしいと警察や検察庁に訴えたが、「罪にならない」とか「嫌疑なし」と言われて、不起訴処分になってしまい、不満だがサテこれを誰にどうしてもらったらよいか、わからなくなってしまったということはありませんか。

「検察審査会」はそのような被害者の不満をきいて、もう一度調べなおして見ることを仕事としています。「検察審査会」は裁判所の中にあって、広く国民の中から民主的に選ばれた検察審査員が、その不起訴処分について調べて見て、もし検察庁の取扱い方が不当と判断すれば、検察庁に「起訴するように」申し入れをするのです。審査の申立は「検察審査会」に申し出れば簡単に、全部無料でその手続きがとれます。

犯人が目こぼしになったのをよいことにして、大手を振って横行しない明るく正しい社会とするために検察審査会を利用しましょう。

検察審査についてのお問合せは八日市場裁判所内八日市場検察審査会事務局（電話八日市場二局一三〇〇番）へ。



## 特別総務員と総務員芳名

（○印は特別総務員）

| 地区 | 区 | 氏名 |
|---|---|---|
| 大総地区 | 木戸台 | 佐久間　明 |
| | 町原 | 伊東　達雄 |
| | 小堤 | 伊藤正一郎 |
| | 寺方 | 萩原　清二 |
| | 寺万二 | 瀬理　勇 |
| | 曾根合 | 小川　由次 |
| | 於幾 | 奈良　光雄 |
| | 坂田 | 実川堅次郎 |
| | 取立 | 吉川　正明 |
| | 長倉 | 平山　和夫 |
| | 姥山 | 土屋　忠夫 |
| | 遠山 | 伊藤　紀勇 |
| | 中台 | 伊藤　正 |
| | 谷台 | 萩原　信一 |
| | 牛熊 | 田鍋　竹志 |
| 横芝地区 | 上町 | ○大藤竜太郎 |
| | 第一 | 熱田太三郎 |
| | 第二 | 早川　唯雄 |
| | 第三 | 今橋辰之助 |
| | 第四 | 高橋　常吉 |
| | 本町 | ○真行寺多仲 |
| | 第一 | 渡辺　富雄 |
| | 第二 | 真行寺多仲 |
| | 第三 | 宮崎　孝四 |
| | 第四 | 椎名　光雄 |
| | 古川一 | 大沢　順司 |
| | 〃二 | 伊藤　正三 |
| | 両国新田 | 浅野　敏晴 |
| | 東町 | ○林　山 |
| | 第一 | 大木　豊 |
| | 第二 | 斉藤　政喜 |
| | 第三 | 田中　孫作 |
| | 第四 | 鈴木　喜一 |
| | 栗山 | ○山本　源作 |
| | 第一 | 若梅東治郎 |
| | 第二 | 若梅　正 |
| | 第三 | 鈴木　滋明 |
| | 四ノ一 | 石川　益男 |
| | 四ノ二 | 前川　静江 |
| | 東部 | 鈴木　恒一 |
| | 伸和会 | 勝又　豊 |
| | 青芝会 | 加瀬　忠司 |
| | 東ケ丘 | 下村　健次 |
| | 宮脇一 | 川島　衛 |
| | 〃二 | 荒木　大和 |
| | 南部一 | 伊藤　幸夫 |
| | 〃二 | 滝田　祝夫 |
| | 鳥喰新田 | 越川　泰亘 |
| | 〃上 | 越川　義春 |
| | 〃下 | 市原　計衛 |
| | 〃沼 | 清水勝三郎 |
| 上堺地区 | 屋形 | ○佐瀬　吉郎 |
| | 南 | 浅野　満 |
| | 宮前 | 海保　良之 |
| | 荒場 | 早川　昭 |
| | 三本松 | 早川　匡昭 |
| | 立会一 | 早川多一郎 |
| | 〃二 | 渡辺　勅夫 |
| | 南川岸一 | 佐瀬　昇 |
| | 〃二 | 佐瀬　嘉男 |
| | 新島 | ○伊藤　八郎 |
| | 道貫 | 小高　謙次 |
| | 新田 | 秋山　繁松 |
| | 本郷 | 川島　六郎 |
| | 荒場 | 鈴木　孝一 |
| | 三島 | 伊藤　清 |
| | 北清水 | ○川島　孝 |
| | 入間 | 椎名　茂喜 |
| | 三軒家 | 川島　幹 |
| | 西 | 川島　正守 |
| | 関場 | 川島　幸夫 |
| | 新青 | 伊藤　和幸 |
| | 東 | 斉藤　一矢 |

（敬称略）